

大谷大学・大谷大学短期大学部 2008年度決算

2008年度決算は、公認会計士および監事の監査を経て、5月25日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学の会計は、公認会計士による監査を定期的に受けて処理されています。また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年、決算承認後、文部科学大臣に届け出ています。

■ 資金収支計算書 ■

資金収支計算書は、その年度の教育研究等の諸活動に対応する資金の収入と支出のほか、その年度内において現実に収納し、また支払った資金の収入と支出について、その顛末を明らかにするものです。したがって、資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金なども含まれます。資金支出には、人件費や教育研究にかかる経費、学生募集・広報など管理部門にかかる経費、借入金返済支出、施設関係支出、設備関係支出などが含まれます。

資金収支の概況

資金収支計算書に基づいて、概要を説明いたします。

2008年度の収入（「収入の部合計」－「前年度繰越支払資金」）は54億5600万円、支出（「支出の部合計」－「次年度繰越支払資金」）は55億9300万円となりました。

収入の部では、学生生徒等納付金収入が前年度比1.8%減の41億4400万円となりました。手数料収入は、昨年度比25.9%増の1億3400万円となりました。これは、2009年度に新たに教育・心理学科を開設したこともあり、志願者数が大幅に増えたことによります。寄付金収入では、ほぼ例年通りの寄付をいただいております。1億8200万円となりました。補助金収入もほぼ前年度と同額の4億4100万円となり、資産運用収入では、預金利率の上昇もあり34.6%増の1億7100万円となりました。資産売却収入は、博物館資料を売却したため300万円の収入となっています。事業収入では、公開講座の受講料や受託研究収入2件などを含めて、6100万円となりました。

支出の部では、退職金が前年度より1億円ほど増額したため人件費全体を押し上げており、前年度に比べて3.5%増の28億1400万円となりました。学生の皆さんの教育研究および学生生活にかかわる教育研究経費は、11億300万円となりました。ここには『学生生活サポートブック』の刊行や就職支援のための

講習、また大学基準協会から認証評価を受けましたので、その認証評価手数料などが含まれます。総務、経理、学生募集やその他広報に関する管理経費は、前年度比26.8%増の5億2300万円となりました。これは特に2009年度に開設した教育・心理学科の学生募集のための広報費の増額によるものです。

施設関係支出では、本部西キャンパス北側の隣接地を購入しましたので、土地支出として1億6700万円を支出しています。その他施設関係では、1号館の教室の空調設備の改修や湖西キャンパス無線LAN工事などに1億8400万円を支出しています。設備関係支出では、教育研究用機器備品として博物館の展示ケースや、博物館の資料として鎌倉時代の『春日鹿曼茶羅』の購入費が含まれています。資産運用支出では、将来の校舎の整備や教育研究に使用する機器の更新のためなどに7億円を積み立てています。

2008年度資金収支計算書（2008年4月1日～2009年3月31日）（単位 円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,144,346,000	人件費支出	2,813,923,834
手数料収入	134,010,940	教育研究経費支出	1,102,569,859
寄付金収入	181,901,000	管理経費支出	522,937,364
補助金収入	441,189,756	借入金等利息支出	27,997,200
国庫補助金収入	440,161,276	分担金支出	10,000,000
地方公共団体補助金収入	361,816	借入金等返済支出	111,100,000
その他の補助金収入	666,664	施設関係支出	184,345,215
資産運用収入	171,327,757	設備関係支出	105,801,983
資産売却収入	3,000,000	資産運用支出	700,414,883
事業収入	60,575,200	その他の支出	53,602,528
雑収入	258,169,410		
前受金収入	759,875,500		
その他の収入	305,677,625		
資金収入調整勘定	△ 1,004,026,603	資金支出調整勘定	△ 40,144,985
前年度繰越支払資金	7,396,820,123	次年度繰越支払資金	7,260,318,827
収入の部合計	12,852,866,708	支出の部合計	12,852,866,708

■ 消費収支計算書 ■

消費収支計算書は、授業料や寄付金など負債とならない収入（帰属収入）と、施設・設備関係の減価償却額や資産の除却額などを含む、その年度に消費する支出（消費支出）との内容及び均衡の状態を明らかにするものです。すなわち、その年度の負債以外の収入と、人件費や諸経費などのいわゆるコストを比べ、バランスが取れているかどうかを見るためのものです。

教育研究を提供する学校法人は、学校を永続的に維持する責任がより一層求められています。そのためには、資金収支の整合性が取れているだけでなく、帰属収入から必要な資産を継続的に保持するために組入れる基本金への組入額を引いた額（消費収入）と、消費支出とのバランスを見ることによって、当該年度だけでなく、将来的な財政の健全性を見ることが重要になってきます。この点、資金収支計算書に比べて消費収支計算書は、長期的な観点をもってあるものといえます。

消費収支の概況

資金収支計算書と重複する項目を除いて説明します。

収入では、寄付金の中に、金額換算をした現物寄付1400万円が含まれています。その中には、教育後援会から寄贈いただいた就職支援用のパソコンや学生貸出し用のパソコン、体育館アリーナの照明設備などが含まれています。帰属収入の合計は、前年度比1.6%増の54億600万円となりました。

支出では、教育研究経費と管理経費の中に含まれる減価償却額が、教育では5億3300万円、管理では1900万円となっています。また、古くなった備品等を処分しましたので、資産処分差額として800万円ほどを支出しています。消費支出の部合計は、前年度比4.3%増の50億1800万円となりました。

当年度消費収入超過額は1400万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は44億4900万円となりました。

2008年度消費収支計算書（2008年4月1日～2009年3月31日）（単位 円）

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,144,346,000	人件費	2,789,678,411
手数料	134,010,940	教育研究経費	1,640,968,314
寄付金	196,217,533	（うち減価償却額）	(533,173,031)
補助金	441,189,756	管理経費	541,766,983
国庫補助金	440,161,276	（うち減価償却額）	(18,646,299)
地方公共団体補助金	361,816	借入金等利息	27,997,200
その他の補助金	666,664	分担金	10,000,000
資産運用収入	171,327,757	資産処分差額	7,891,639
事業収入	60,575,200		
雑収入	258,183,861	消費支出の部合計	5,018,302,547
帰属収入合計	5,405,851,047	当年度消費収入超過額	14,179,768
基本金組入額合計	△ 373,368,732	前年度繰越消費収入超過額	4,435,099,162
消費収入の部合計	5,032,482,315	翌年度繰越消費収入超過額	4,449,278,930

■ 貸借対照表 ■

学校法人の目的である教育研究活動を達成するためには、施設や設備など各種の膨大な運用財産を必要とします。貸借対照表は、これらの財産の保有状況を表し、教育研究に必要な財産が適正に維持・管理されているかどうかを示すものです。その意味で

この貸借対照表は重要であり、消費収支計算書とともに長期的な観点を持つものといえます。

ここでの資産は、保有する土地、建物、現金預金などを示し、負債とは、借入金や退職給与引当金など、いずれ支出となっていくものを示します。基本金は、学校法人が必要な資産を永続的に維持するために、帰属収入のうちから組入れたものです。この基本金と消費収支差額の合計が正味財産となります。

貸借対照表の概況

ここに掲載した貸借対照表は、大谷大学・大谷大学短期大学部を設置する学校法人真宗大谷学園全体のものです。学校法人真宗大谷学園は、大谷大学・大谷大学短期大学部のほか、九州大谷短期大学、大谷高等学校、大谷中学校、大谷幼稚園を設置しています。

資産の総額は、487億6900万円で、前年度に比べて4億2400万円の増加となりました。内訳は、土地、建物、備品、図書および引当特定資産などの固定資産が389億1000万円、現金預金などの流動資産が98億5800万円となっています。

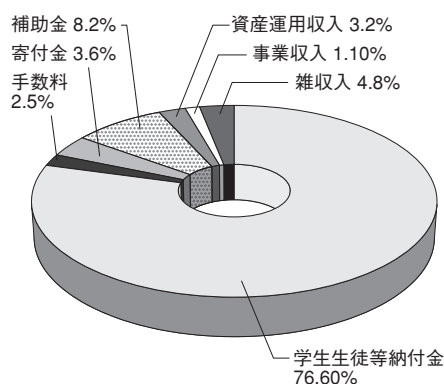
負債の合計は、48億700万円で、前年度に比べて1億300万円の減少となりました。内訳は、退職給与引当金などの固定負債が32億9100万円、未払金や前受金などの流動負債が15億1500万円となっています。

基本金は、398億800万円となり、前年度に比べて6億3800万円の増加となっています。

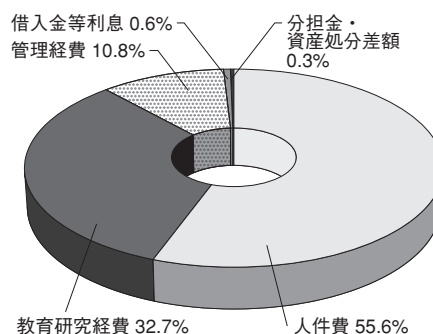
貸借対照表 真宗大谷学園総括表（2009年3月31日）（単位 円）

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科目	2008年度末	科目	2008年度末
土地	8,988,178,970	長期借入金	1,290,390,000
建物	11,625,631,918	退職給与引当金	2,000,993,330
構築物	458,074,182	固定負債計	3,291,383,330
教育研究用機器備品	558,074,754	短期借入金	134,980,000
その他の機器備品	24,128,571	未払金	221,718,039
図書	3,618,099,457	前受金	1,067,197,500
車輛	6,599,150	預り金	91,426,816
建設仮勘定	21,428,000	流動負債計	1,515,322,355
電話加入権	3,443,124	負債の部合計	4,806,705,685
施設利用権	1,113,886		
敷金	1,236,000	第1号基本金	35,262,312,565
預託金	162,050	第2号基本金	3,370,000,000
長期貸付金	112,313,170	第3号基本金	625,861,337
引当資産	13,491,980,277	第4号基本金	550,000,000
固定資産計	38,910,463,509	基本金の部合計	39,808,173,902
現金預金	9,459,616,646		
未収入金	376,297,871	翌年度繰越消費収入超過額	4,153,846,714
貯蔵品	6,284,664	消費収支差額の部合計	4,153,846,714
仮払金	2,123,649		
前払金	13,688,991		
立替金	250,971		
流動資産計	9,858,262,792		
合計	48,768,726,301	合計	48,768,726,301

■2008年度帰属収入の構成比率



■2008年度消費支出の構成比率



財 産 目 録

真宗大谷学園総括表

2009年3月31日

I	資産総額	金	48,768,726,301円
	内 1 基本財産	金	25,418,483,232円
	2 運用財産	金	23,350,243,069円
II	負債総額	金	4,806,705,685円
III	正味財産	金	43,962,020,616円

科 目	2008年度末
一 資産額	
(一) 基本財産	25,418,483,232円
1 土地	8,988,178,970円
大谷大学・大谷大学短期大学部校地	85,236.32㎡
九州大谷短期大学校地	38,928.29㎡
大谷高等学校・大谷中学校校地	33,039.73㎡
大谷幼稚園校地	2,995.40㎡
2 建物	11,625,631,918円
(1) 校舎	67,972.03㎡
(2) 図書館	9,539.61㎡
(3) 講堂・体育館	19,160.07㎡
(4) 寄宿舍	7,347.14㎡
(5) その他	75.27㎡
3 図書	3,618,099,457円
4 教具・校具・備品	582,203,325円
5 構築物	458,074,182円
6 車輛	6,599,150円
7 電話加入権	3,443,124円
8 施設利用権	1,113,886円
9 敷金	1,236,000円
10 預託金	162,050円
11 長期貸付金	112,313,170円
12 建設仮勘定	21,428,000円
(二) 運用財産	23,350,243,069円
1 預金、現金	9,459,616,646円
現金 現金手許有高	3,415,341円
普通預金	610,271,156円
定期預金	8,825,000,000円
当座預金	3,080,980円
通常貯金	8,037,309円
振替口座	9,811,860円
2 積立金	13,491,980,277円
3 貯蔵品	6,284,664円
4 未収金	376,297,871円
5 前払金	13,688,991円
6 仮払金	2,123,649円
7 立替金	250,971円
資 産 総 額	48,768,726,301円
二 負債額	
1 固定負債	3,291,383,330円
(1) 長期借入金	1,290,390,000円
日本私立学校振興・共済事業団	1,290,390,000円
(2) 退職給与引当金	2,000,993,330円
2 流動負債	1,515,322,355円
(1) 短期借入金	134,980,000円
(2) 前受金	1,067,197,500円
(3) 未払金	221,718,039円
(4) 預り金	91,426,816円
負 債 総 額	4,806,705,685円
三 正味財産 (資産総額-負債総額)	43,962,020,616円

《教育及び学生支援に関する事業》

①新学科開設に伴う初等科教員養成課程の開設

2009年度開設予定の教育・心理学科に、小学校教諭一種免許状取得課程と幼稚園教諭一種免許状取得課程を設置すべく、文部科学省へ申請を行い、認定通知をいただきました。

②GPAの導入

2008年度の文学部と短期大学部の入学生より、GPA制度を導入しました。GPAとは、アメリカの大学で広く採用されている成績評価システムです。Semesterごとに成績を算出することで、学習の成果と推移がより明確となり、学生自身で履修状況の確認をすることが容易となります。また教員も、学生の学期ごとの学習成果と推移がより明確に把握でき、従来よりも効果的な学習支援をすることができるようになりました。

③FD(ファカルティ・ディベロップメント)の実施状況

本学では2007年度に教務委員会FD部会を設置し、組織的に教育内容や授業方法を改善し向上させるための活動を推進しています。2008年度は、「大学教員とFD」をテーマに「第2回FD研修会」を実施し、講演記録の冊子を作成したほか、学外研修会に参加し、研修報告会を開催するなどの活動を行いました。

④国際交流の促進

韓国・イギリス・ドイツ・インドの4カ国への語学研修、文化研修に90名の学生を派遣しました。また修士課程に1名、博士後期課程9名、文学部に1名、留学研究生10名、合計21名の留学生を受け入れたほか、本学学生を韓国の東國大学校、東西大学校、中国の首都師範大学、上海交通大学、オーストラリアのボンド大学、クイーンズランド大学に送り出しました。

⑤実習支援センターの充実

2007年度より発足した実習支援センターでは、実習アドバイザー・社会学科社会福祉コース及び幼児教育保育科教員と教務部が連携し、福祉・保育・幼稚園関係実習を行う学生へのサポートを行っています。2008年度は、スタッフによる実習指導を強化し、実習に関する書籍、資料の充実を積極的にはかりました。また11月には実習懇談会を開催し、「実習における学びと育ち」をテーマに、全体会において本学実習生による実習報告を行いました。

⑥学生生活サポートブックの作成

新入学生が大学生活を始めるに当たり、必要な情報を提供し、安心して学生生活を送れるよう従来のガイドブックを見直し、新たに「学生生活サポートブック」として作成しました。

⑦学生の進路・就職支援

各種講習やガイダンスのほかに、「キャリアデザイン概論」を前期に開講しました。これは、「キャリアデザイン」という考え方を手がかりに、生きること、学ぶこと、働く

ことについて理解を深め、充実した学生生活を基礎とした進路選択を実現することを目的にしたもので、157名の受講がありました。また、就職アドバイザーを1名配置し、企業の採用動向の把握や新規の求人開拓を行い、その情報をもとに学生の適性に合った就職先を紹介できる体制を強化しています。

《学術及び研究に関する事業》

①学位授与

優れた研究業績をまとめ、博士の学位申請を行った者の中から厳密な審査を経て、2008年度は課程博士9名、論文博士2名、合計11名に対して博士(文学)を授与しました。

②真宗総合研究所の研究

学長を代表者とする指定研究として、(1)大谷大学親鸞聖人750回御遠忌記念特別指定研究「親鸞像の再構築」(2)国際仏教研究(3)西藏文献研究(4)大谷大学データベース研究(5)真宗本廟(東本願寺)造営史研究の5件、一般研究として採択された共同研究6件、個人研究1件、合計12件の研究プロジェクトを推進しました。

《組織及び施設に関する事業》

①認証評価への取組

大谷大学・大谷大学短期大学部について、(財)大学基準協会による「大学評価ならびに認証評価」・「短期大学認証評価」の申請を行いました。その結果、同協会の「大学基準」「短期大学基準」に適合していると認定されました<認定期間：2009(平成21)年4月1日～2016(平成28)年3月31日>。なお、「自己点検・評価報告書」「基礎データ」「評価結果」については、大学ホームページ上で公開しています。

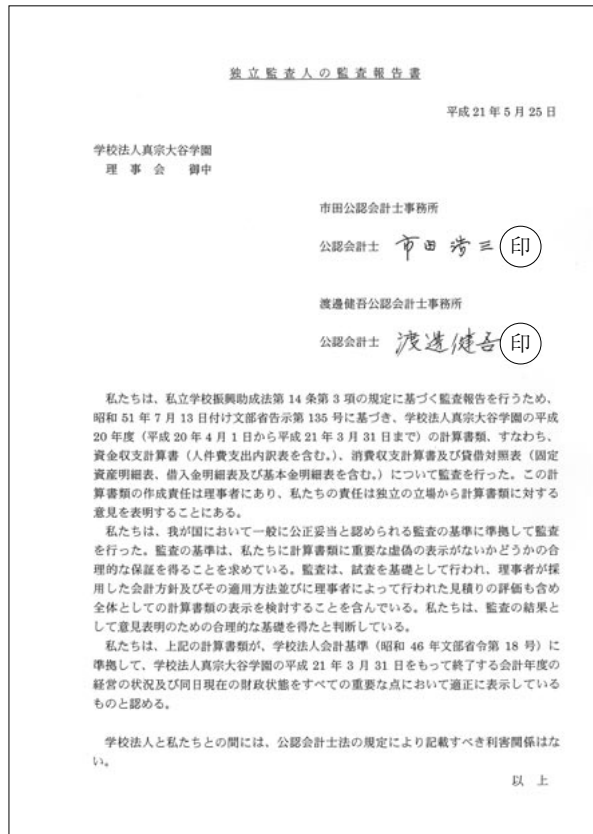
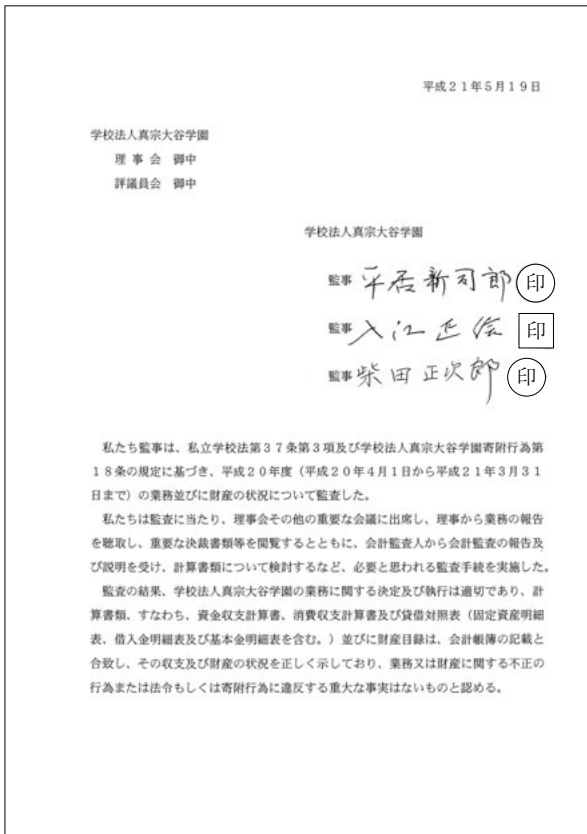
《社会への開放》

①公開講座の開講

本学教員が講師を務め、開放セミナー、紫明講座、京大学講座、博物館セミナーなどを年間通じて開講しました。2008年度は19テーマの講座を開講し、計880名の受講生がありました。また、地域交流事業として天津市仰木の里における子育てイベントに本学教員や学生が協力したほか、紫明講座の内容を京都府インターネット放送局に提供しました。

②博物館

毎年年1回の特別展と4回の企画展を実施しています。2008年度の特別展は「聖徳太子伝の世界—えがかれた和国の教主—」をテーマに展示しました。各展示期間中、ギャラリートークや講演会、学芸員・博物館スタッフによる展示解説ツアーなど、観覧の方々に展示の魅力を伝える取り組みをしました。また学生による展示ガイドや音声システムガイドを実施するなど、教育・学習と博物館展示の接続を拡充しました。



—— 大谷大学・大谷大学短期大学部 2009年度予算 ——

2009年度予算は、3月25日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

大谷大学では、仏教精神によって自己を問うことを学びの基本理念としており、「自己とは何か」を問い続け、人間として生きるための智慧を身につけることが何よりも大切なことと考えています。本学に入学した学生の皆さんが、さまざまな「学び」と「出会い」を通して真に人間として身につけなくてはならない智慧を得られるよう、教育研究の拡充とキャンパス内の環境と施設を整備し、充実した大学生活を過ごせるように予算を編成しました。

現在、学生の皆さんへの情報提供は「学内掲示板」を主としており、補助サービスとしてWebを利用した「学生向け情報提供システム」を運用しています。この情報提供システムを活用し、学生の皆さんの希望する情報がWeb上に掲載されると、メールにて知らせるサービスを後期から開始する予定です。また、このメール配信のサービスを利用し、全国各地において地震や水害などの天災による被害が起きた場合、瞬時に学生の皆さんへ安否確認メールを配信し、迅速に安否情報を把握することができるようシステムを構築します。

従来からも教職に就こうとする学生の皆さんへの支援業務は、教職支援センターにおいて行ってきましたが、教育・心理学科の新設を機会に、新たな体制のもとに教職支援センターを4号館内に開設し、より充実した教職課程の支援を実施します。

教職以外の就職希望者にも広く企業を選択できるよう、個々人の適正に応じた就職先を紹介できる体制を強化してまいります。

また、教育研究施設である博物館では、今秋、2007年度に交流協定を締結した韓国の東國大学校博物館の収蔵品を中心に、韓国の仏教美術を展示する特別展を予定しています。

その他、教室棟である1号館において、順次空調設備の更新を進めていますが、本年度も引き続き実施してまいります。

18歳人口の減少や昨今の経済情勢の悪化の中で、大学を取り巻く状況は厳しいものがあります。その中で、大谷大学樹立の精神を見失うことなく、現代という時代社会の問題との接点を探りつつ、仏教精神によって自己を問うことを学ぶ学生の皆さんが、大切な人間の課題を見つけていただけるようサポートするとともに、個性輝く大学として教育研究の一層の拡充を図るために予算を執行してまいります。

(学監・事務局長 長谷岡英信)

2009年度資金収支予算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

(単位 円)

学生生徒等納付金収入…授業料や、実習の際に納めてもらう実習料です。

事業収入…寮への入寮費や公開講座の受講料、受託研究による収入などです。

前受金収入…次年度入学者の入学料や授業料などです。

その他の収入…貸与奨学金の返還金などです。

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,052,125,000	人件費支出	2,869,916,000
手数料収入	96,805,000	教育研究経費支出	1,249,631,000
寄付金収入	181,000,000	管理経費支出	485,329,000
補助金収入	381,940,000	借入金等利息支出	25,665,000
資産運用収入	150,013,000	分担金支出	10,000,000
事業収入	67,300,000	借入金等返済支出	111,100,000
雑収入	157,900,000	施設関係支出	868,163,000
前受金収入	738,375,000	設備関係支出	277,624,000
その他の収入	1,266,185,000	資産運用支出	700,400,000
		その他の支出	45,357,000
		予備費	20,000,000
資金収入調整勘定	△ 884,137,000	資金支出調整勘定	△ 48,673,000
前年度繰越支払資金	7,260,318,827	次年度繰越支払資金	6,853,312,827
収入の部合計	13,467,824,827	支出の部合計	13,467,824,827

施設関係支出…土地や建物等の取得にかかる支出です。

設備関係支出…大学の資産となる備品などの取得にかかる支出です。教室の机、パソコン、図書などがこれにあたります。

資産運用支出…将来的な施設充実や機器の更新のための積立てに支出するものです。

その他の支出…前年度経費のうち年度を越えてから支払わなければならない支出や立替金などです。

2009年度消費収支予算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

(単位 円)

手数料…入学検定料や証明書発行手数料などです。

寄付金…有志の方々や真宗大谷派および教育後援会から寄付していただいているものが主です。

補助金…国や京都市などからの補助金です。

資産運用収入…預金の利息や大学の施設利用料などです。

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	4,052,125,000	人件費	2,972,281,000
手数料	96,805,000	教育研究経費	1,809,873,000
寄付金	189,100,000	(うち減価償却額)	(560,242,000)
補助金	381,940,000	管理経費	507,090,000
資産運用収入	150,013,000	(うち減価償却額)	(21,761,000)
事業収入	67,300,000	借入金等利息	25,665,000
雑収入	163,350,000	分担金	10,000,000
		資産処分差額	750,000
		予備費	20,000,000
		消費支出の部合計	5,345,659,000
帰属収入合計	5,100,633,000	当年度消費支出超過額	1,601,913,000
基本金組入額合計	△ 1,356,887,000	前年度繰越消費収入超過額	4,449,278,930
消費収入の部合計	3,743,746,000	翌年度繰越消費収入超過額	2,847,365,930

人件費…専任の教職員、非常勤講師、嘱託職員、アルバイト職員などの給与等です。

教育研究経費…教育や研究活動にかかる消耗品や通信費などの経費のことです。

管理経費…人事、総務、経理、職員の福利厚生や学生募集にかかる経費のことです。

「大谷大学広報09-秋」発行のお知らせ

「大谷大学広報09-秋」の発行を11月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

- ①博綜館ピロティ（博綜館入口横） ②至誠館（学生支援課カウンター前） ③響流館（図書館、教育研究支援課カウンター）
④学内食堂 ⑤各研究室 ⑥1号館1階 ⑦2号館1階

また、大谷大学ホームページから、バックナンバーを含め広報の閲覧が可能です。

http://www.otani.ac.jp/annai/shuppan/d_kouhou.html